

【山口県光市】 校務D X計画

1 「校務D Xチェックリスト自己点検結果」を踏まえた取組について

学校には、学習指導や生徒指導に加えて、保護者対応や関係機関との連絡調整、学校内での事務や会議等、多岐にわたる業務が存在している。今後は、教育活動の質の向上や教職員の負担軽減による働きやすい環境づくり等に向けて、校務D Xの取組を進めていくことが求められている。

こうした中、令和5年11月に、教育委員会及び学校が教育D Xを推進する際に取り組むことが望ましい項目を整理した「GIGAスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」が文部科学省から示され、全国の公立小中学校（義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部を含む。）及び公立小中学校の設置者を対象とした自己点検が実施された。

自己点検の結果を踏まえ、校務のデジタル化に向けて取り組むべき項目や学校間での取組状況の差を解消すること等の課題に対して、今後は特に以下の2点について各学校と連携しながら校務D Xの推進を図っていく必要がある。

（１）GIGA環境・汎用クラウドサービスの一層の活用

全ての市立小中学校の教職員は校務用の個人アカウントを市教育委員会から付与されており、汎用型クラウドサービスを利用できる環境にある。

自己点検結果によると、クラウドサービスを用いた保護者からの欠席連絡の受付等の取組について、学校間の差があることがわかった。

今後は、先進的な取組の水平展開を促すとともに、学習eポータルの活用等を検討し、ICTの活用による校務の効率化に向けた環境整備を進める。

（２）FAX・押印等の制度・慣行の見直しの取組

光市教育委員会では、業務の効率性と正確性を高めるために必要な方法を精査しながら、FAXや押印等について、制度・慣行の見直しを含めた検討を進める。

2 統合型校務支援システムの運用について

全ての県内の市町立小中学校では、令和6年度からパブリッククラウド方式の統合型校務支援システムの運用を開始している。本システムは、成績処理や出欠管理等を行う「教務系」、指導要録等の作成・管理を行う「学籍系」、健康診断表の作成・管理や保健室来室管理等を行う「保健系」の機能を有しており、児童生徒情報の共有化と多様な校務処理の効率化が可能で、幅広い業務で活用している。

今後は、児童生徒の成績や保健関係など様々な情報がシステムに蓄積されていくことから、これらの教育データを教育ダッシュボードで可視化することで、個に応じた支援や指導の充実に取り組む。

また、県内の市町立小中学校と県立学校で運用している異なるシステム間でのデータ連携を研究するなど、システムへの名簿情報などの手入力作業の削減を目指す。

3 デジタル採点システムの導入検討

デジタル採点システムを試験的に導入し、採点業務の効率化について調査研究する。